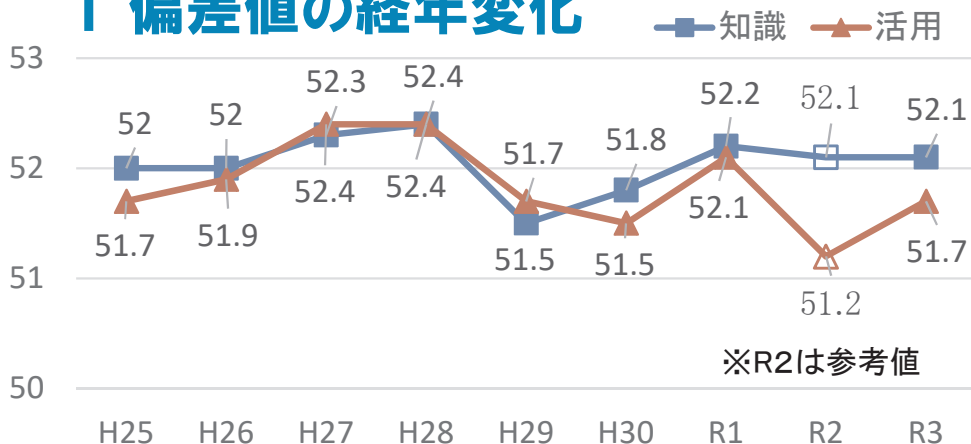


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

## 結果のポイント

### 1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

### 3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
数と計算	72.2	67.3	67.2
図形	73.6	70.5	70.0
変化と関係	65.6	61.5	60.8
データの活用	55.6	48.3	46.3

○全ての領域において、全国正答率及び目標値を上回っている。

### 2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	73.9	69.0	68.4
思考・判断・表現	56.6	53.3	53.6
主体的に学習に取り組む態度	58.8	53.0	51.4

○全ての観点において、全国正答率及び目標値を上回っている。

### 4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	72.8	68.7	68.4
短答	71.6	66.8	66.4
記述	39.2	31.7	30.3

○全ての解答形式において、全国正答率及び目標値を上回っている。

## つまづきが見られた問題

**大問11(2) 県正答率34.7%**

【ねらい】面積についての感覚を身に付けている。

[問題例] 紙幣の面積は約何 $\text{cm}^2$ か。

【正答】約 $120\text{cm}^2$

【誤答例】約 $12\text{cm}^2$  (55.7%)

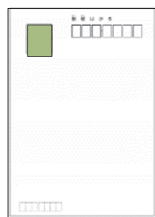
### ◆ 指導のポイント

○面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を理解できるように指導する。

### ★ 指導の具体例

具体物を用いて、量の大きさの感覚を豊かにする

★面積の大きさの見当を付けることは、長さよりも難しい。身の回りのものの面積の大きさを考える際、縦や横の長さの見当を付け、およその面積を求める活動を取り入れる。



小学  
算数4上  
教科書



様々な量の学習場面を通じた指導を充実する

★重さ、広さ、長さ、かさ等、意図的に日常の具体物と繋げることが大切。

**大問18(2) 県正答率34.5% 県無回答率27.5%**

【ねらい】2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明することができる。

【問題の概要】2つの折れ線グラフについて、ある児童の考えが違っていることを、「どの月に注目したのかがわかるように、言葉や数を使って」説明する。

【正答例】7月から8月の間のグラフを見ると、東京もキャンベラも7月より8月の方が気温が上がっているから。

【誤答例】7月から8月の間のグラフに着目しているが、理由が不十分。

### ◆ 指導のポイント

○グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるよう指導する。

○「判断した根拠を明らかにした上で、理由を説明できる」ようにするため、論理的な説明の組み立てに慣れさせる。

### ★ 指導の具体例

説明し合った後、友達の考えを使い説明したり、問題を解く活動を取り入れたりする

★話し手は図や表に書き加えたりしながら説明していくことも大切。

★聞き手はその話を理解しているかを、聞き手に問い返したり、同じことを言わせたりして理解を促すことが大切。

算数の学習での説明の基本形(例)

①考え方(根拠)を示し方針をはっきりさせる。  
~の考えが使えると思います。  
~の公式をもとに考えるとよいです。

②取り出した情報を整理し計算等を行う。

③答えにつながる計算や説明を行う。

④ 答え(結論)を導き出す。